

内水面水産技術センター

岩県内水面水産技術センターでは、湧き水の管理や、サクラマス・アコ増殖の研究等を行っています。職員数が5名ながら、皆さん頑張っているそうです。私達は特別に水の湧き口を近くで見せていただいたり、魚道のえさやりをさせてもらったりしました。

焼走り溶岩流

ここはおおよそ標高が500~600mとなっている。

このように、周リ一面が溶岩で溶岩のほとんどは安山岩に分類される。



昔、近隣にあった家屋の屋根が溶岩のせいであって燃えて、灰が走っているように見えた…。だから「焼走り」というふうに名付けられたそうです。実際に行ってみて、周りは溶岩と山で、すごく自然を感じられる場所でした。溶岩をよく観察してみると、1つ1つの溶岩に違った特徴が見られ、コケなどの地衣類もありました。自然公園保護管理員の方からお話を聞いて、これらの溶岩を生み出した松尾鉦山の自然と歴史についても深く詳しく学ぶことができました。

徳水園

見学したのは円筒分水。これは、周辺の散居集落の農業用水不足の解決に貢献している。これは胆沢川から定期的に水をためて、噴水から湧き出し、さらに2つの水門から、周辺地域に1分回す。毎秒16tとず。と止まらずに水を循環させることで、田畑の農業用水の不足を防いでいる。この噴水によって農業をすくりに、とてもいい環境が作られている。



米内浄水場

米内浄水場は県で唯一 緩速ろ過装置と急速ろ過装置を組み合わせて使用可能な浄水場である。緩速ろ過装置は水の流し、重力を利用して汚物を沈殿させ、砂の層でこして綺麗にする方法のこと。急速ろ過装置は河川水に「ポリ塩化アルミニウム」を混ぜ、濁質(水を濁らせるもの)を沈殿させ、上澄みを取り出す方法のこと。

○掃除について (緩) → 月1。3つある内の1つを1週間交代。  
 (急) → 6つの内の3つほどを1日に掃除。その汚物は凝縮して「脱水機」とロクはれる塊になる。  
 → 主成分は泥 → エコリトの材料などに  
 ○管理について (前) → 人の目による管理。(現) → 機械によるセンサー管理。  
 女川の水の管理... 米内川の水と魚の水槽に差り異常がないか監視。今までX

四十四田ダム

四十四田ダムは、洪水調節、発電の為に造られたダムですが、浮遊物を沈殿させるという効果もありました。酸性水に耐える特別なコンクリートで作られた部分と、土の部分がある「複合ダム」であることが特徴です。見学した地下では、ダムの変形や漏水を計測し、管理しているそうです。また、四十四田発電所も見学させていたりました。盛岡市の消費電力の約15%を発電しているといい、回転する発電機も見えました。水の多様な利用方法や、安全管理の重要性について実感することができました。

「あいほーと」

あいほーとでは、集中管理センターというところで川の様子を24時間カメラで監視し、水害を防いでいます。自然災害時には、職員の方々が巡回して川の様子をチェックするそうです。また、常設展示のコーナーでは過去の水害を知ることができる展示が沢山ありました。特に洪水体験紙芝居「生きる」は、水害のおそろしさがとても伝わってきました。